

令和6年度研究推進計画

大竹市立玖波小学校

1 研究主題

「『わかった』『できた』と実感し学びに向かう児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びがつながる授業を通して～

2 主題設定の理由

本校はこれまで授業のUD化の取組を通して、「できた」「わかった」と実感し、学びに向かう児童の育成をめざしてきた。昨年度は、その授業のUD化を土台として、児童一人一人の実態に目を向け、それをいかした取組を行うことで個々の学びを充実させ（個別最適な学び）、その学びを認め合う場を作る（協働的な学び）ことで児童の主体的な学びを実現しようと取り組んできた。その結果、学習についてのアンケートでは、92.6%の児童が「できた」「わかった」と実感することができた」と肯定的な回答を示し、主体的に学ぶ姿も増えた。しかし、「学びたいことや学び方を自分で選んで、学習を進めることができる。」と回答した児童は、87.2%だった。これは、これまでの個別最適な学びとして、自己選択の場面が「学習内容」を選択する場が多く、学習意欲は上がったものの、児童に自分で学習を進めたという実感がなかったためだと考える。また、研究授業を行った際、単元構成を考える過程で、児童のめざす姿や児童の実態把握が明確になっていなかったことから、児童の実態に沿った学習内容になっていないという課題も浮かび上がってきた。

そこで、今年度は、昨年度と同様に、自己選択と自己決定を行う「個別最適な学び」と個の学びを認め合う「協働的な学び」がつながる授業改善に取り組んでいく。そして、それを深化させるために、自己選択の場面を、学習方法や学習形態など、学習の進め方を選択する場面を増やしていく。また、その一つとして、「マイプラン学習（自由進度学習）」にもチャレンジしていく。これは、児童自らが自分の意見・判断によって自らの学習を組み立て、計画し、進める学習である。これらを行うことで、児童は、自己選択した方法で自ら学習を進めることとなり、自分に最適な学び方を見出し、自己調整能力を付け、自ら学びに向かうことができると考える。

また、その個の学びを、「協働的な学び」の中で交流することで、自分とは違う学習内容や学習方法を知り、他者の良さ・自分の良さに気付くとともに、振り返りを行うことで自分の学びを実感し、新たな学びとなる次の「個別最適な学び」へとつながる授業をめざしていく。

これらの授業改善を行うためには、児童に付けたい力と児童実態を明確にし、それを踏まえて単元構成を考えていかなければいけない。単元構想シートを利用し、本質的な問い、単元を貫く問いを明確にして児童に付けたい力を確認し、きめ細やかに把握した一人一人の特性や実態とを比べ、今児童に必要な指導を行うために単元構成を考えていく。

「個別最適な学び」により児童一人一人の学びを充実させ、その学びを認め合い他者と関わりたいと考える「協働的な学び」とつなげることで、児童は、自分の学びをこれまでの自分の学びや他者の学びとつなげることができるようになり、将来的に自分の力で学び続けることができると考える。このような研究を進めることで、児童が「わかった」「できた」と実感し、「もっと伝えたい」「もっと学びたい」という児童の学びに向かう力を高めていきたい。

今年度は「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」の指定を受けている。児童一人一人の実態を細やかに把握し、特別支援教育の考え方を生かした「個別最適な学び」を実現していく。

3 研究仮説

児童が個々の特性に応じた学習内容や学び方を選択し、共に学ぶ良さを実感できれば、「わかった」「できた」と実感し、児童の学びに向かう力は高まるであろう。

4 研究の内容

- (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる取組
- 児童の特性や実態に応じた学習内容・学習方法の充実
 - ・一人一人の特性や実態の把握
 - ・特性や実態に応じた学び方の研究
 - 一人一人が学習課題や学び方を選択できる場の設定
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなげる単元構想・授業構成
 - ・マイプラン学習の実施（各学年1回程度）
 - ・共に学ぶ価値を実感できる全体交流の場面の設定
 - ・振り返りによる児童の自己分析
 - ICTの効果的な活用
- (2) 特別支援教育の考え方を生かした授業改善
- 児童のつまずきの把握
 - 個別の支援体制の充実

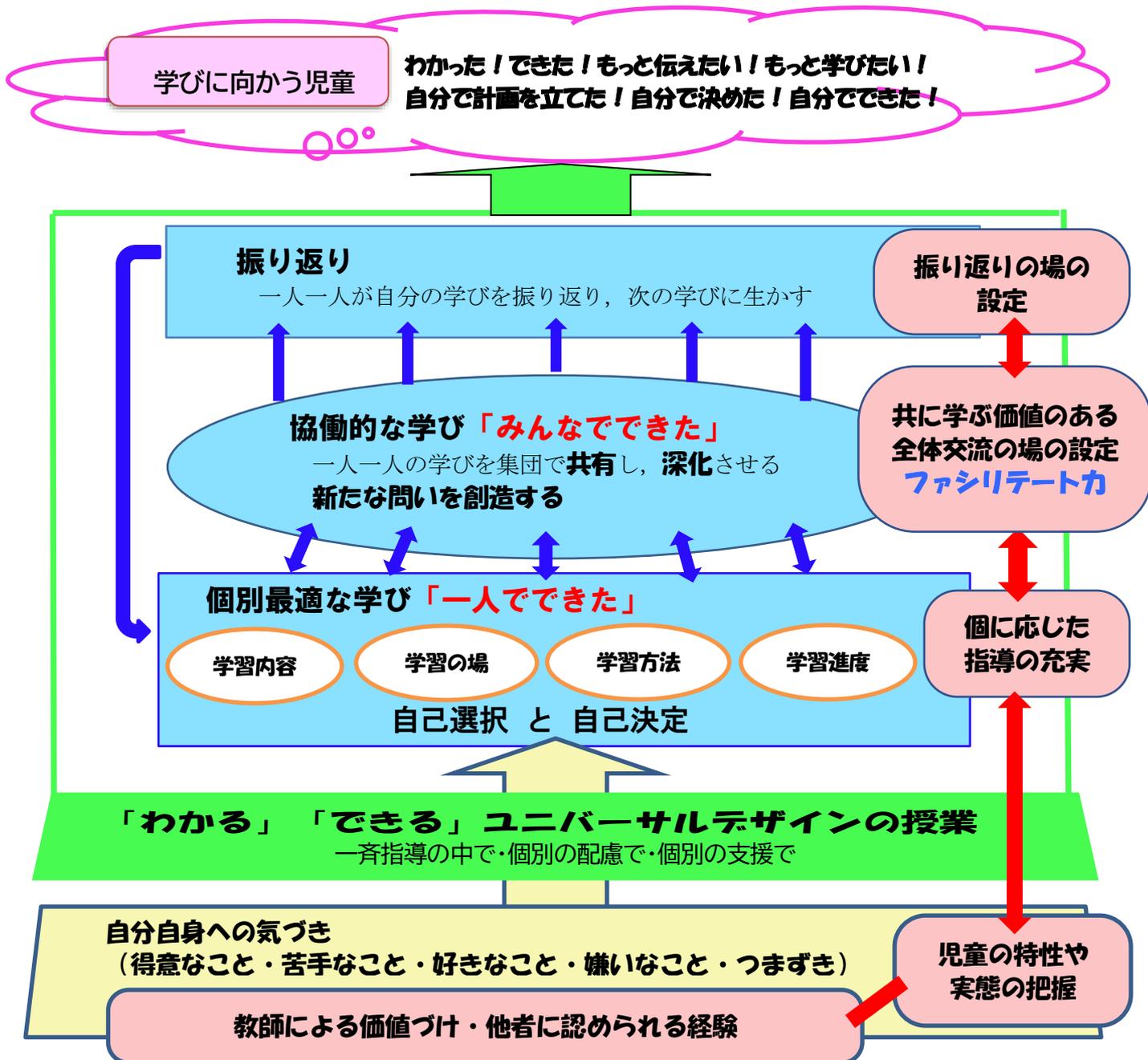
5 検証計画

視 点	方 法	指 標
○児童は「わかった」「できた」と実感することができたか。	児童アンケート ・「わかった」「できた」と実感することができたか。	児童アンケート評価の肯定的評価が85%以上
○児童は学びに向かう力を高めることができたか。	児童アンケート ・自己決定 「学びたいことや学び方を自分で選んで、学習を進めることができたか。」 ・個別最適な学びと協働的な学び 「自分の考えで友達の学びが深まったか。」	児童アンケート評価の肯定的評価が80%以上
○学力が向上したか。	標準学力調査	標準学力テスト全国平均以上

6 研究構想図

学校教育目標 「共に生きる」

【研究主題】 「『わかった』『できた』と実感し、学びに向かう児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びがつながる授業を通して～



【昨年度の児童の実態】

- 90%以上の児童が、「わかった」「できた」と実感することができている。
- 標準学力調査標準スコア40%以下の児童が国語5名 算数8名いる。
- 自分に最適な学び方を見つけていない。

7 研修計画

	月 日 (曜)	研 修 内 容
①	4月11日 (木)	・研究主題・研究計画の具体的内容についての共通認識
②	4月16日 (火)	・「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びプロジェクト」 についての事業説明
③	6月12日 (水)	・授業研究① (6)年 「 」 (土居) 教諭
④	6月27日 (木)	・授業研究② (2)年 「 」 (川本) 教諭
⑤	7月 日 () 夏季休業中	・指導案について
⑥	8月23日 (水) 夏季休業中	・指導案検討
⑦	8月28日 (水)	・小中合同研修
⑧	9月12日 (木)	・授業研究③ ひまわり 「 」 (笠井) 教諭 (特別支援学級) ・授業研究④ たんぽぽ 「 」 (林) 教諭 (特別支援学級)
⑨	10月1日 (火)	・授業研究⑤ 市教育委員会主催 (4)年 「 」 (平林) 教諭
⑩	11月14日 (木)	・授業研究⑥ 小中合同研修 中学校 「 」 () 教諭
⑪	11月21日 (木)	・授業研究⑦ 小中合同研修 (1)年 「 」 (森田) 教諭 (5)年 「 」 (八木) 教諭
⑫	1月30日 (木)	・授業研究⑧ ()年 「 」 (石田) 教諭 (専科)
⑬	2月27日 (木)	・今年度の研究のまとめ ・来年度に向けて